齋藤　繁／肥塚史郎 編集

CTガイド下神経ブロック

・真興交易(株)医書出版部
・2011年3月15日　第1版第1刷発行
・B5判/172頁/並製本
・定価（本体5,800円＋税）
・ISBN 978-4-88003-849-0

「CTガイド下神経ブロック」出版にあたってという編者の言葉がある．この前文で，病院で働く医師たちがペインクリニックの効果と限界を正しく捉えつつ，社会を説得し，自ら環境を整えるべき環境を整えるべく活動する時期であろうと考えており，その中で各ペインクリニック専門医がそれぞれの施設で，良い診療，科学的で再現性があり，伝承的な診療の積み上げる必要，EBMの提示，多くのサクセスストリーを公開していくことにより，世間から頼れるペインクリニックの確立を考えていることを披露している．

その流れで，神経ブロックの職人芸的な手法を，CTガイド下神経ブロックの技法が，脱職人芸と診療の近代化に当てはまると述べており，これからの神経ブロックの流れの1つを示している．

構成は，総論でCTの特性と種類，その説明を詳述しており，その中でIVR（interventional radiology）CTなどにも言及している．

神経ブロックの概論で，神経ブロックに使われる補助手段として，神経刺激装置，X線透視，超音波，MRI，CTなどは，いずれも客観的に，より安全に，より正確に施行するために行われてきたと述べ，その補助手段の使用の決定は，神経ブロックの種類，患者の状態および術者の技量や医療経済を考慮すべきであると記載している．安全・安心な神経ブロックを行うには，病院や医院に備わった機器，習熟度，費用によって決まると思われるのでまさに的を得た言葉といえる．

その後，各論として，三叉神経節，上顎神経，下顎神経，胸部・腰部交感神経節ブロック，腹腔神経叢・内臓神経・下腸間膜・上下腹神経叢・不対神経節ブロック，神経根ブロック，腰部脊髄神経後枝内側枝ブロック，経皮的椎体形成術，コルドトミー，CTのための補助用具などが解説されている．

各論では，はじめにのところでCTガイド下神経ブロックの意義を述べて，解剖，準備，器具，薬液，患者体位，手技，手順，合併症，適応，コツと落とし穴（アドバイス）の項目で構成されている．とくにコツと落とし穴（アドバイス）が記述されていることにより，安全に手技を行うときに役に立つと考えられる．

また，穿刺しながら，必要に応じてCT透視で軌道修正を，フットスイッチを駆使して，その場でリアルタイムに行うと，あっという間に目標に到達できると述べ，CT利用がX線透視下神経ブロックと劣らずリアルタイムで試行可能なことが理解できた．

CTガイド下神経ブロックの利点としては，交感神経節ブロックなどを一度に両側施行可能であり，解像度に優れ，エタノールなどの破壊薬を注入するときにはとくに有用である．それは手技上，解剖上の合併症の回避できる可能性が高い．すなわち，神経ブロック経路の内部環境（臓器や腫瘍の浸潤）の把握や針穿刺位置と針の深さの計測が容易で，造影剤の広がりから，鎮痛効果が予測でき，合併症予防の可能性が高いと思われた．

この本はよくまとまっており，CTガイド下神経ブロック法の手技をマスターするための書の1つとして推薦したい．

大瀬戸清茂
（東京医科大学麻酔科学講座）